

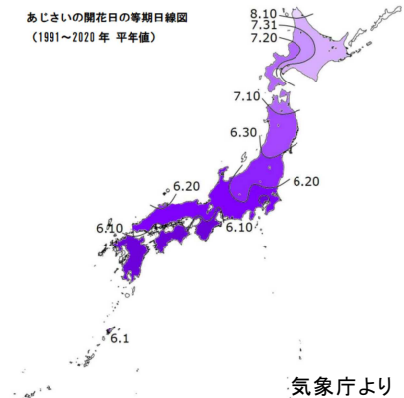
紫陽花の季節

関東地方も梅雨入り。この季節、青やピンク、白のグラデーションを楽しませてくれるアジサイですが、元々は日本の暖かい地方の海岸線に自生するガクアジサイが変化したものと言われています。落葉広葉樹のアジサイは、ご存知のように低木漢字では紫陽花と書き、学名では属名に「水」の意味をもつ *Hydrangea macrophylla* となっています。一般的にアジサイの花といわれている部分は装飾花で、大部分 4 枚のガク(萼)片が大きく変化したものです。

気象庁では、うめ、さくらと同様に全国の気象観測機関で統一した基準によりアジサイ、かえで・いちじょうが紅(黄)葉した日など標本木と呼ばれる観測する木を定めて植物の季節観測を行っています。それによれば、東京におけるアジサイの 2022 年開花日データを調べて見ると、6 月 10 日で平年より + 5 日となっていました。学校近くでもすでに 5 月末頃から数種類のアジサイが咲き始め、ピラミッドアジサイまたはロケットアジサイなどと呼ばれる北米原産のカシワバアジサイ *Hydrangea quercifolia* も咲いています。

今年は、江戸時代後期に長崎で過ごしたドイツ人医師で植物学者のシーボルト Philipp Franz Balthasar von Siebold(1796-1866)が来日してからちょうど 200 年目に当たりますが、彼はアジサイ属の新種を発見したとして自分の妻「オタキさん(楠本たき)」の名に因んで *Hydrangea otaksa* と命名して物議をかもしました。「理科」の時間に学習したように、アジサイの花(ガク)の色は、アントシアニンという色素によるもので、これに補助色素とアルミニウムのイオンが加わると青色となるそうです。アジサイは、土壤の pH(酸性度)によって花の色が変わり、一般に「酸性ならば青、アルカリ性ならば赤」になると言われています。しばらくは、アジサイの色の変化を楽しみましょう。

あじさいの開花日の等期日線図
(1991~2020 年 平年値)



気象庁より